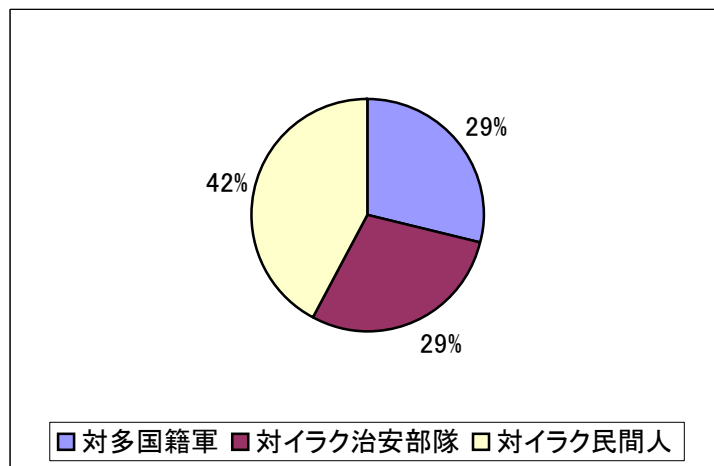


## イラクの治安の現況

イラクにおける治安の悪化は継続しているが、イラクの新聞と AP 通信社は、最近、イラクの治安に関する統計データを発表した。最近のイラクの治安状況を示すものとして興味深いので、取り纏めの上、ご紹介したい。

5月27日付アッザマーン紙は、イラクの治安状況に関するイラク国防省アブドゥ・ル＝アジズ・ムハンマド中将の発言を報じている。アブドゥ・ル＝メフディ副大統領が、バグダード、アンバール、バスラ、ディヤーラの各県の治安状況が極めて悪いと述べていることに見られるとおり、現在のイラクの治安状況は地方によって異なるが、イラクの状況を概観するには珍しいと思われるところ、以下の通り取り纏めてみた。なお、最近の抵抗勢力の攻撃は、自爆テロによるものは昨年よりもほぼ半減し、仕掛け爆弾（IED）によるものが多いとされてきたが、今回の発言もこの傾向を裏打ちしている。

5月19－25日に見られた抵抗勢力による「有効な」テロ攻撃の回数は166回に達し、その標的（攻撃回数による分類）は以下の通りである。これらの攻撃の内、実に48%が仕掛け爆弾によるものである。また、同時期の拉致事件等も増加傾向にある。



この攻撃による被害とイラク治安部隊側の「成果」は以下の通りとなっている。

被害者数	
イラク人の死者	98
イラク人の負傷者	280
テロリスト側の死者	85
テロリスト側の負傷者	375

6月1日付バグダード発 AP 電の報道取り纏め。この報道は、戦闘によるイラク人被害者の増加を指摘する一方で、自爆テロの減少を取り上げ、現在の戦闘による被害者の多くは IED によるものであるとの前頁の指摘を裏打ちしている。また IED の被害が増加しているためか、1年前と比較してより多くの民間人が巻き込まれる様子が明確に見て取れる。

AP の調べによると、今年に入って 4000 名以上のイラク人が殺害されているが、その多くが民間人で、5月だけで 936 名が殺害され、今年に入って 2 番目に多い死者数を記録した。

